

# 衣笠

第493号  
September.2024  
2024年9月1日発行



わたしの兄弟である  
この最も小さい者の一人にしたのは  
わたしにしてくれたことなのである  
マタイによる福音書 25章40節



社会福祉法人  
日本医療伝道会  
衣笠病院グループ  
Japan Medical Mission  
<https://www.kinugasa.or.jp>



## 理事就任挨拶

日本医療伝道会 理事 佐野 かず江

この度日本医療伝道会理事になりました佐野かず江と申します。私は秋田県で生まれました。看護学校への入学を機に横須賀に参りました。

卒業後間もない頃のことです。長期間入院している患者さんが、ある日、つぶやかれました。「私はね、看護婦さんがドアの前に立つとその方がどんな気持ちで立っているかわかるの」その言葉を聞いたとき、自分ではどうしようもない場所に置かれている方々に心を向ける意味を知らされた思いでした。忘れられない出会いで今でも大切にしたい出来事です。

衣笠病院には 1993 年から看護師として、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等で勤務しました。一度退職しましたが、約 7 年前に衣笠病院へ再就職し、現在はミッション局の局長と相談・支援センター長を務めさせて頂いております。

相談・支援センターは患者さんの受け入れから退院までの実働部隊。ミッション局は、チャプレン室を中心にパストラルケア（こころと魂のケア）を行い、病院グループ全体が、何を大切にどこに気持ちをむけるのか等を共に考える部署だと考えております。

「いと小さきものにしたのはわたしにしてくれたこと」を大切に誠心誠意務めて参りたいと思います。どうぞ皆さまからのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

- 2 病気の予防と治療  
認知症を予防し、生き生きとした毎日を  
衣笠ホーム 生活相談課 課長 緒方 弘美
- 3 外来患者満足度調査報告  
衣笠病院 副病院長 兼 看護部長  
質管理向上 (QC) 委員会 委員長 鈴木 由美子  
「タラント」を育む  
～新設部署に就任して～  
タレント成長支援室 室長 西崎 恵利子
- 4 衣の会 30 周年記念講演会開催報告  
衣笠病院ボランティア 衣の会代表 田端 小太郎  
5年ぶりに「ボランティア講座」を開催して
- 5 病院グループ歴史館 第 2 回  
衣笠病院の源流 (その 2)  
法人監事 阿部 誠  
今月の聖句  
横須賀学院中学校宗教主任 安達 正希
- 6 2023 年度の事業報告および決算報告  
専務理事・グループ本部長 都甲真二  
2023 年度 後援会会計報告  
衣笠病院グループ福祉医療後援会 会長 松山 慶三
- 7 新任ドクター紹介  
2024 年度 インフルエンザワクチン接種について  
元気に長生き！  
～基本チェックリスト⑥ うつ編～  
衣笠病院 リハビリテーション技術科 作業療法士 安齋 朱乃
- 8 ケアマネジャーのケアマネ子さん  
聞いてもいいですか? ⑥  
こころを聴くボランティア養成講座  
編集後記



タバの礼拝(5/10)  
ALSの畠中一郎さん(すこやかさ ゆたかさの未来研究所代表理事)

### プロフィール

国立横須賀病院附属看護専門学校卒業  
1993年4月 国立横須賀病院 (現在のうわまち病院) 退職後、衣笠病院へ  
入職  
2000年4月 衣笠病院ケアセンター事業開始に伴い所長兼管理者  
2020年6月に衣笠病院 相談・支援センター長、2024年6月にミッシ  
ョン局局長を兼務し、現在に至る

衣笠ホーム 生活相談課 課長 緒方 弘美 (神奈川県認知症介護指導者) さんに聞きました



## 認知症を予防し、 生き生きとした毎日を

厚生労働省の研究班が、2040年において認知症の高齢者が584万人にのぼるという推計を出しました。これは高齢者のおよそ15%、6.7人に1人にあたると言われています。また、物忘れ等の症状があるものの生活に支障はなく、認知症の診断までには至らない状態「軽度認知障害(MCI)」と言われる人が、612万人に上ると推計されています。これらの現状を考えると、認知症は他人ごとではなく、自分自身、自分の大切な人になり得る可能性があることを再認識します。

令和元年に出された「認知症施策推進大綱」は、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって生活ができる社会を目指し、「共生」と「予防」の2つの考え方が挙げられました。この予防は「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を遅らせる」という考え方です。認知症のある人が増加し認知症の人を支える活動が進められる一方で、「認知症になったら何もわからなくなってしまう」「認知症になりたくない」と考える人も多い現状があり、この認知症への低いイメージを変えていく上でも大切な考え方だと思います。

更に、令和6年に施行された「認知症基本法」では、認知症の人が尊厳を保持しつつ、希望を持って暮らすことを理念とし、その1つに「認知症の予防」が掲げられています。地域の人々が認知症予防に取り組みながら生き生きと地域で暮らし続けること、認知症の人を介護している家族自身が健康で介護を継続していくためにも認知症予防に取り組んでいくことが大事だと考えます。

認知症予防のポイントをおさえましょう。



### 生活習慣

生活習慣の改善は認知症予防に効果があります。生活習慣病に注意しましょう。

- ・ 高血圧、肥満に注意する
- ・ 白内障で見えにくい方、難聴で聞こえづらい方は早めに治療や対応が必要
- ・ 予防に効果的な睡眠 だいたい7～8時間
- ・ お酒の飲みすぎに注意
- ・ 歯周病予防に歯磨きを行う

### 運動

運動をすることで脳が刺激を受け、認知機能が向上します。運動習慣をつけ、適度に体を動かしましょう。

- ・ 週3回以上、30分/日
- ・ 散歩の習慣
- ・ 有酸素運動(ウォーキング)
- ・ 歩きながら脳を使う運動(コグニサイズ)  
例)歩きながら「しりとり」

### 食事

野菜・果物・豆類・魚などを豊富に含む食事がオススメです。主食・主菜・副菜と品目をバランスよくとりましょう。

- ・ 青魚(サバ、イワシ、サンマ)・ナッツ類
- ・ 緑黄色野菜・ビタミンC・乳製品
- ・ 緑茶 赤ワイン(ポリフェノール)

### 交流 / 活動

人の会話や交流は認知症予防に重要です。特に、人との会話が多いほど、認知症になる可能性が低いと言われています。

- ・ 家族以外の人と会話や交流を行う
- ・ 社会活動に参加する
- ・ 役割をもつことも大事
- ・ 日記をつける
- ・ 音楽、芸術活動に参加する

日常のなかで変化に気づいたり、心配なことが起きた時は、早めに相談をしましょう。



## 外来患者満足度調査報告

衣笠病院 副病院長 兼 看護部長  
 質管理向上 (QC) 委員会 委員長 鈴木 由美子

283名の外来患者さんにご協力頂き、満足度調査を実施しました。職員の対応、施設面、待ち時間など数パーセントではありますが、ほとんどの項目で満足度の向上を認めました。

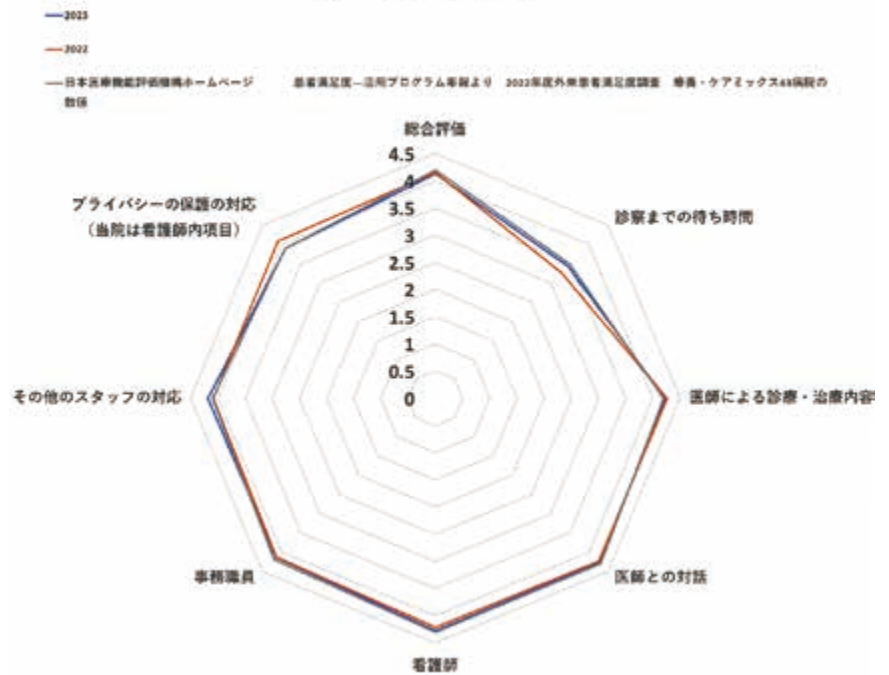
職員の対応では、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション技師、看護師等が直接患者さんに関わる場面が増え、個々の患者さんの体調や生活状況に合わせた生活の工夫を共に考えさせて頂いている影響もあり、評価して頂けたと思います。

施設面では、後援会をはじめ多くの方々より頂戴した病院75周年記念献金で、一部ですが外来の床の張替え、待合椅子の新調をすることができ、「病院外来が明るくなった」「椅子が座りやすく楽になった」等のお言葉も頂きました。

今後の課題は多くありますが、「待ち時間の分かりやすさ(表示などの工夫)」「声などプライバシーへの配慮」について、引き続き検討致します。また、入院患者さんからのご回答も増えるよう

努力致します。今後とも皆様からの貴重なご意見を活かしサービス向上に努めますので、宜しくお願い致します。

### 外来患者満足度調査



## 「タラント」を育む ～新設部署に就任して～

タレント成長支援室 室長 西崎 恵利子

この度タレント成長支援室長を拝命致しました。「タレント成長支援」聞きなれない言葉ですが人材育成やキャリア開発を主に役割として担います。法人として人材育成・確保をより強化するために新設されました。看護部の教育・キャリア支援を担当していましたが、活動を法人全体に拡大する事となりました。微力ですが職員一人一人を大切に育て魅力ある職場となり、選ばれる法人・施設・職員になるための仕組み作りができればと考えております。

「タレント」という言葉は聖書のマタイによる福音書第25章14～30節にある「タラント」に由来しています。「才能・能力・技量」という意味があります。職員が持つ

「タラント」を豊かに活かすために、一人一人の成長をサポートし、まかれた種が深くしっかりと根をはり、豊かに芽生え育ち実を結べるような環境を提供できればと思います。



## 衣の会30周年記念講演会開催

衣笠病院ボランティア 衣の会代表 田端 小太郎



島 進先生

衣の会は発足30周年を迎え、2月24日、宗教学者で東京大学名誉教授の島進先生を講師にお迎えして「日本人の死生観とグリーフケア」という演題で、衣笠病院のご後援を頂き、30周年記念講演会を開催いたしました。

横須賀学院の美しい大チャペルをお借りし、パイプオルガンの荘厳な演奏、礼拝で幕を開け、約400名の方のご参加を頂きました。

開催にあたりましては衣笠病院の皆様と他ボランティアグループのご理解と力強いお支えを頂きました。改めて深く感謝申し上げます。行き届かないことがありましたことをお詫びいたします。

我が身に降りかからねばわからないことがあります。

それでも尚、少しでも患者さんやご家族の思いをわかりたいと願う私たちを衣笠病院が受け入れて下さって今があります。先生の資料の中の「たわいのない話、ほんとうの話」を伺いながら、今後とも礎は大切に、気持ちは新たにと歩んで参る所存です。よろしくお願いいたします。



衣笠病院グループを支えるボランティア団体である「衣の会」の皆さんと職員

## 5年ぶりに「ボランティア講座」を開催して

2024年6月13日・14日に5年ぶりとなるボランティア講座を開催いたしました。今回は、34名もの多くの方の参加があり感謝でした。

講師も古屋理事長をはじめ、緩和ケア医師、チャプレン、ボランティア等の多職種から話をさせていただきました。

受講者からは「全人医療に共感した」「衣笠病院グループの愛を感じた」「してあげるより、居てあげる事」「私も出来る事があると感じた」など多くの感想や意見もあり、現役のボランティアからもボランティア活動は「責任をもって」「させて頂く」などの大切な気持ちも伝えていただきました。

コロナ禍の5年間はボランティア活動の休止、ボランティアの人数等にも大きな影響を及ぼしました。

今回の講座では、24名の方が衣笠病院グループでの何らかの活動を希望されています。

今後は、その活動が自主的なものと、法人が求めるもの両者をコーディネートする、そしてスキルの向上(研修、組織体制)も整えていかなければなりません。

日頃のボランティア活動に感謝すると共に、更なる支援をしていきたいと思えます。(常務理事 柳井 芳明)



ボランティア講座終了後、一人一人に修了証授与

# 「衣笠病院グループ歴史館」

## 第2回 衣笠病院の源流(その2)

日本基督者医科学生連盟の中国医療奉仕の働きは、戦争の激化により1938年と1939年の2回で終了せざるを得ませんでした。医学生たちの祈りと献身の思いを継続するため日本YMCA同盟は南京に病院を建設し中国人民への医療奉仕を行うこととなりました。

### ③朝天医院の開設

戦時中日本YMCA同盟は大陸各地（上海・南京・北京・広東）に主事を派遣し基督教青年会の事業を開始していました。中国YMCAやキリスト教会の困難を助けて協力するためでした。南京には木本茂三郎（後の当法人理事）、上海には末包敏夫（後の同理事長）が派遣されていました。1941年に日米開戦となり欧米系のキリスト教病院は撤退し、日本YMCA同盟が南京に朝天医院を開院することとなりました。YMCA同盟は財政・人材面で支え、病院責任者に井口保男（当法人第5代理事長・井口延の実父）、医療スタッフに医科学生連盟より医師松島正雄（当院初代副院長）のほか、看護師、助産師を派遣し、中国の方々への贖罪の医療奉仕を始めたのです。病院は南京旧市街の中国人居住区にあり、20床程度の小施設であるものの、いつも40人を超える入院患者で溢れていました。敵国の医療奉仕であったものの、キリストの愛のある活動は中国の人々に受け入れられ、多くの患者が来院しました。松島医師は開院後すぐに徴兵され、急遽替わった医師の西川雪女が南京陸軍病院の高島軍医の協力を得ながら敗戦までの4年間中国の人々への診療にあたったのです。

### ④朝天医院の運営と閉院

太平洋戦争が進むに従い中国現地経済はインフレになり日本YMCA同盟が苦心して募金を集め送金しましたが、1年分で1か月を支える程度しかならなかったそうです。収入は患者からはなかなかいただくことが出来ず、運営は非常に厳しい状況でした。職員への報酬は少なく従業員は毎日最低限の食費、被服やその他

小遣いに廻すものはない状態でした。全く軍人のようなぎりぎりの経済生活でした。従って、YMCA後援会長や日本人教会牧師、南京YMCAの井口・高山両主事等が積極的に南京で募金活動し、末包は上海で中国YMCA関係者や中国人、日本人に協力依頼し、月に一回は薬品問屋で薬品を仕入れトラック一杯にして南京に運んで運営を行っていました。

1945年の終戦により南京朝天医院は惜しまれながら閉院することとなりました。しかしながら閉院に伴う諸経費の未払い分の清算、人件費の4か月分の遅れの清算など、YMCA主事や役員たちは途方に暮れることとなりました。ちょうどこの悩みに応えるかのように、全く予期しないところから大金が転がりこんできました。それは上海競馬場の慈善基金からでした。競馬の益金の一部がチャリティファン্ডとして委員会の審査のうえ選ばれた社会福祉団体に交付されることになっていました。この年の配分先に中国YMCAと共に日本YMCA同盟の働きに配分されることが決まり末包が受け取ることとなったのです。ジュラルミンのトランク一杯の札束の大金を受け取った末包は外車で自宅へと運びました。しかしこの大金を南京まで無事に運べるかが大問題でした。敗戦後日本人にとっては南京まで行くことは一苦勞です。9月2日末包は意を決して木綿の中国服をまとい、三等列車で中国人に混じり、汚れたトランクを下げ南京に向かいました。この作戦は見事成功し、朝天医院の閉院残務処理をことなく済ませ、関係者が無事復員することができました。このことを神に感謝せずにはいられないと末包は後々まで、語っていました。

以上、日本YMCA同盟の南京朝天の歩みを紹介させて頂きました。敗戦から2年後、1947年8月衣笠病院が開設されます。YMCA・キリスト者医科連盟の関係者の協力を次回紹介させて頂きます。（文中敬称略）

（法人監事 阿部 誠）

## 今月の聖句

横須賀学院中学校  
宗教主任

安達 正希

### 「衣笠病院とのつながり」

「イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた」

（マタイによる福音書 4章23節）

中学生、高校生と接する機会が日々与えられています。・・・自分を見ているように感じる時があります。キリスト教学校で学ぶ・学んだ生徒・学生が、聖書の言葉とともに歩んでほしいと祈っています。

上に掲げた聖書の言葉は、主イエスの活動の要約と言われることがあります。現代でいえば、大雑把ですが、教会、医療・社会福祉、学校を指しているとも言えます。横須賀の場合、戦後の混乱期にこれらがほぼ同時期に誕生しました。横須賀学院もその一つです。方向性の異なるように見える三つですが、根底には共通するものがあります。礼拝を大切に、み言葉と共に歩み、祈ることです。

横須賀学院中学校の礼拝に衣笠病院チャプレン（病院付牧師）をお招きし、お話をしていただくことがあります。老いや病、障がいと共に歩まれている方のこと、サポート・医療にあたられている方のこと、ホスピス・ターミナルケアを通して、多感な中学生に神さまの愛を感じてほしい、自分と他者・隣人の「いのち」を思うときになってほしいです。また、いつかは出ていく社会で、自分のことで精一杯のことも多いかもしれませんが、「あいのわざはちいさくても、かみのみ手ははたらいて、なやみのおおい世のひとを あかるくきよくするでしょう」（讚美歌Ⅱ編 26番、横須賀学院では花の日礼拝に合わせて歌います）を思い出してほしいと願っています。



## 2023年度の事業報告および決算報告

専務理事・グループ本部長 都甲 真二

2025年になると団塊の世代全員が75歳を超えます。すでに、2023年度の衣笠病院の新入院患者の約7割が75歳以上で、緩和ケア病棟を除き、そのほとんどがご自宅や介護施設に退院されます。これから増々、日常のかかりつけ医機能、栄養管理や口腔衛生、重症化や重介護化の予防、治療必要時の入院受入れ、入院前後の連携、退院後のケア、リハビリ、一体的な在宅サービスの提供が重要になります。

昨年6月に、当グループが直面する①地域ニーズに合わせることで衣笠病院グループが担うべきサービスを整えること、②人口急減する横須賀でサービスの担い手（医療・介護職）を安定確保すること、③施設設備の改修や人への投資の基となる健全経営という、3つの大きな課題に対して組織を改編しました。課題①については前段のニーズに着実に応えるため、将来を担う世代による「機能再構築プロジェクト」を進めています。課題②については専門職種の採用・配置・育成をグループ横断的に担う看護・リハビリ等の統括職を新設し、人事・勤怠システムの整備に着手、給与制度等の改定準備を開始しました。

昨年度の決算は増収減益となりました。事業活動は堅調でしたが、諸経費の増加とコロナ関連補助金の減少が収益を押し下げました。衣笠病院と衣笠ろうけんが安定した運営で高い実績を残し、他の施設も質向上と健全経営の両立に取り組んでいます。建物設備の改修、療養環境の改善が急がれますので、新年度も経営の安定と財務の健全化に取り組んで参ります。引き続きご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

### 社会福祉法人 日本医療伝道会

#### ■ 2023年度 損益状況

収入総額	5,716
【事業活動収入】	5,620
【事業活動外収入】	41
【特別収入】	55
支出総額	5,615
【事業活動支出】	5,494
【事業活動外支出】	66
【特別支出】	55
当期活動増減差額	101

#### ■ 2023年度 財産の状況

2024年3月31日現在(単位:百万円)

資産総額	6,803
流動資産	1,818
固定資産	4,985
負債総額	5,517
流動負債	2,042
固定負債	3,475
差引純資産総額	1,286



## 2023年度 後援会会計報告

衣笠病院グループ福祉医療後援会 会長 松山 慶三

日頃より衣笠病院グループ福祉医療後援会に多くのご支援を賜り感謝申し上げます。また衣笠病院グループ内の各施設への寄付やその他多くの寄付を頂きましたこともあわせて感謝申し上げます。

2024年7月17日に衣笠病院グループ福祉医療後援会評議員会を開催し、2023年度事業会計報告が承認されました。皆様からの寄付金は、衣笠病院グループの医療・介護の機

器等の購入など、地域の利用者・患者の皆様のために役立てるよう、大切に使用させて頂いております。尚、明細は下記の通りです。これからも衣笠病院グループ福祉医療後援会に、1人でも多くの方にご加入いただきご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせはグループ本部 総務課まで  
TEL: 046-852-1182 (代)

#### ■ 2023年度寄付金

	創立記念	クリスマス	ホスピス	衣笠 ケアセンター	衣笠ホーム	衣笠 ろうけん	後援会	在宅 クリニック	長瀬 ケアセンター	総計
件数	4	92	37	17	99	10	538	2	1	800
金額(円)	565,000	1,303,375	799,000	46,000	426,769	538,000	4,486,120	35,000	10,000	8,209,264

新任  
ドクター  
紹介



緩和ケア科 鈴木 真由

この度、2024年6月より衣笠病院緩和ケア科に着任いたしました鈴木真由と申します。2010年に順天堂大学を卒業し、消化器内科へ入局、2018年から国立病院機構東京病院で消化器内科と緩和ケア科で勤務し経験を積んでまいりました。

緩和ケア科では患者様のお一人お一人が、自分らしく安寧な時間を過ごせるよう努めたいと思います。また自分自身も新たな環境でさらに成長したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 2024年度 インフルエンザワクチン接種について

今年度のインフルエンザワクチン接種は、10月からを予定しています。詳細は決まり次第お知らせします。

衣笠病院グループのLINE公式アカウントでは、お友達を募集中です。ご登録いただくと、健診のお知らせやインフルエンザワクチン接種の予約開始など、最新情報を得ることができます。ワクチン接種の予約開始については、公式LINEで先行してお知らせをする予定です。ぜひ、ご登録ください。



## 元気に長生き!

### ～基本チェックリスト⑥ うつ編～



衣笠病院 リハビリテーション技術科 作業療法士 安齋 朱乃

「最近、調子が出ない・・・以前と様子が違う・・・」と感じることはありますか？ご自身のことでも、ご家族など身近な方の様子でも、なんだか違うような気がすると感じたら、簡単なチェックリストを活用してみませんか？下記の質問に「はい」か「いいえ」で答えるだけで、簡易的にうつ病の可能性をチェックすることができます。

うつ病は、心理的な症状だけではなく、身体的な症状を伴うことも珍しくありません。一時的ではなく、原因となった出来事が解決しても、憂うつ感や、不定愁訴が続く場合があります。楽しいことや喜ばしい出来事があっても、気分が晴れず、疲労感を感じてしまうこともあります。また、食欲や睡眠などの基本的欲求が低下することもあります。これらは、脳のエネルギー不足によって起きているかもしれません。チェックリスト5項目中、2項目以上に該当する場合、うつ病の可能性が考えられます。

※ご心配な方は、医療機関等受診を御検討ください。

1	(ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	はい	いいえ
2	(ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	はい	いいえ
3	(ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	はい	いいえ
4	(ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	はい	いいえ
5	(ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	はい	いいえ

# ケアマネジャーのケアマネ子さん 聞いてもいいですか? ⑥ ～認知症の利用者について～

衣笠病院長瀬ケアセンター 居宅介護支援事業所 高田 薫

ここは鯛田町3番地のある通り。今日もまた迷える羊の  
メー太君がケアマネ子さんの事務所に訪れます。



介護に迷える羊 メー太  
父・母・祖母と暮らす  
おばあちゃん子  
慌てるとメー!と鳴く



メー代  
メー太の祖母



ケアマネ子  
鯛田町のケアマネージャー  
メー太の隣人(猫)  
メー代の担当者

**メー太** 「ケアマネ子さん大変です!うちのばあちゃんが何度も僕に同じことを言うんです。」

**マネ子** 「どんなことを言うの?」

回想シーン: 「メー太、今年はセーターを編んであげようね。何色がいい?」

「ピンクかな!」

(3分経過)

「・・・メー太今年はセーターを編んで・・・(以下同文)」

**メー太** 「・・・とまあ、こんな様子が嬉しいけど疲れます」

**マネ子** 「優しいメー代さんらしい話ね」

**メー太** 「もしかして物忘れって言うものでしょうか?」

**マネ子** 「その可能性はあるかもね。「認知症」という言葉はメー太君も知ってますよね。  
代表的なのは・アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症(ピック病等)です。  
最初の関わりが大切と言われていて、専門医を受診したりケアマネに相談する事、そして何より介護者の対応が重要  
とされているの」

**メー太** 「僕の対応?」

**マネ子** 「人によっては徘徊・妄想・暴言・暴力が有ったり様々な心理症状が出て、家族も冷静な介護どころでは無くなる場合  
も有るのよ。でも感情的に叱ったりすると症状が悪化してしまうの。家族が穏やかな気持ちで介護できるように私達はサー  
ビスを調整していきます。」

**メー太** 「僕は疲れちゃうので、ばあちゃんのセーターの話は10回に1回は聞き流しています。今日は「ラクダ色」と答える予定です」

**マネ子** 「それも一つの方法ね」

第15回

## こころを聴く ボランティア養成講座

開講期間

2024年10月10日～2025年3月13日  
(全10回・原則として第2、第4木曜日)  
9:30～17:00

募集定員 10名

場 所 衣笠ホーム(衣笠病院から送迎あり)

参加費 20,000円 下記QRコードから申込画面にお進みください。

こんな方のご参加をお待ちしています

- \* 病院でボランティアを始めたい方
- \* こころのケアに関心のある方
- \* 傾聴の学びを深めたい方 ...など

講座内容

- ・ 講義(座学): 傾聴・コミュニケーションの基本を学びます。
- ・ グループワーク: こころを聴くボランティアになるために、まずは自分自身のこころを見つめます。
- ・ 実習: 実際にボランティアとして訪問し、お相手のお話を伺います。
- ・ 会話記録: 実習でのお話や出来事を記録にまとめ、振り返ります。



講師

大野 高志...国内外での教会牧師を経て、2007年から衣笠病院グループ職員、現在同グループチャレン室長。

櫻井 唯乃...高齢者施設や在宅ケアの現場にて音楽療法の実践を行うほか、現在衣笠病院グループチャレン室スタッフ



## 編集後記

秋の兆しを感じられつつも、まだまだ  
随所に暑さを感じる今日この頃、皆様い  
かがお過ごしでしょうか。最近では、春  
や秋が短く感じます。洋服選びも大変で  
すね。季節としては、横須賀発祥のスカジ

ンが着やすいように思います。昔ながら  
のビンテージ物から様々な和柄やキャラ  
クターとのコラボなど、幅広い年代の方  
が長く着られるアイテムになっているよ  
うです。これから寒暖差もあるかと思ひ  
ますがどうかご自愛頂きますと幸いです。  
(Y.K)

「衣笠」No.493

2024年9月1日発行  
発行人 古屋 修身  
発行 社会福祉法人  
日本医療伝道会衣笠病院グルー  
プ 〒238-8588 横須賀市小矢部 2-23-1  
TEL. 046-852-1182 (代表)  
郵便振替口座 00220-2-13963  
編集 社会福祉法人日本医療伝道会  
広報委員会  
印刷 (株)ポートサイド印刷

